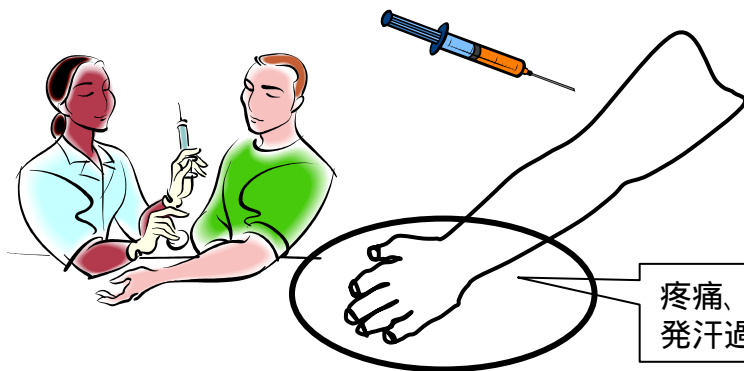


1) 複合性局所疼痛症候群

複合性局所疼痛症候群 (CRPS)

医療安全対策
文書 No.321



疼痛、浮腫、皮膚血流変化、
発汗過多、運動障害

複合性局所疼痛症候群

複合性局所疼痛症候群とは、外傷などによる組織損傷後に、その原因事象の程度とは不釣り合いに強くかつ長期に渡って持続し、原因事象と直接因果関係のない浮腫・皮膚血流変化や発汗異常を伴う慢性疼痛症候群であり、時に重度の運動障害をきたす。

従来、四肢の外傷後、その部位や程度とは一致しない激しい慢性の疼痛を生じ、浮腫や血管運動異常など交感神経症状を伴うものを反射性交感神経性ジストロフィー (reflex sympathetic dystrophy: RSD)と呼び、外傷が神経損傷に及ぶ場合をカウザルギー (causalgia)と呼んでいた。1994年の世界疼痛学会では両者を統合して、複合性局所疼痛症候群 (complex regional pain syndrome, chronic regional pain syndrome: CRPS)とし、RSDをtype、カウザルギーをtypeとした。

医療行為に伴う報告事例：神経近傍を穿刺する手技 (動脈穿刺、神経麻酔時)、静脈穿刺時、鎖骨下静脈穿刺時、静脈点滴、造影CT、ペースメーカー植込み時など

静脈穿刺における発生頻度：軽症も含めると静脈穿刺の約6000人に1例、重症例は150万人に1例。

複合性局所疼痛症候群を防ぐための対策

手関節付近での穿刺はさける

必要以上に深く穿刺しない

同じ箇所を何回も穿刺しない

神経刺激症状が出現したらすぐに抜針する

水関隆、他、反射性交感神経ジストロフィーの病態と診断、骨・関節・靭帯 9; 1173-1180, 1196

森壘、他、造影CT検査時の静脈穿刺による神経因性疼痛の1例、日本医放会誌、62; 834-835,2002

松井美華、他、脊髄電気刺激療法を試みたcomplex regional pain syndromeの2例、脳と発達、2003;35;331-335

本多史奈、他、ペースメーカー植込み後、複合性局所疼痛症候群を生じた1例、日本内科学会雑誌、91; 219-220,2002

複合性局所疼痛症候群（CRPS）の診断基準

次の 、 、 を満たすこと。

障害の程度とは一致しないような痛み、異疼痛（allodynia）、痛覚過敏

痛みのある部分にある時点で浮腫、皮膚血流の変化、汗腺刺激性の活動を示す状態が発生すること

痛みと機能不全の程度を説明するような他の状態がないこと

上記の痛みに関係した神経の障害がない場合はtype（RSD）、ある場合はtype（causalgia）と分類される。

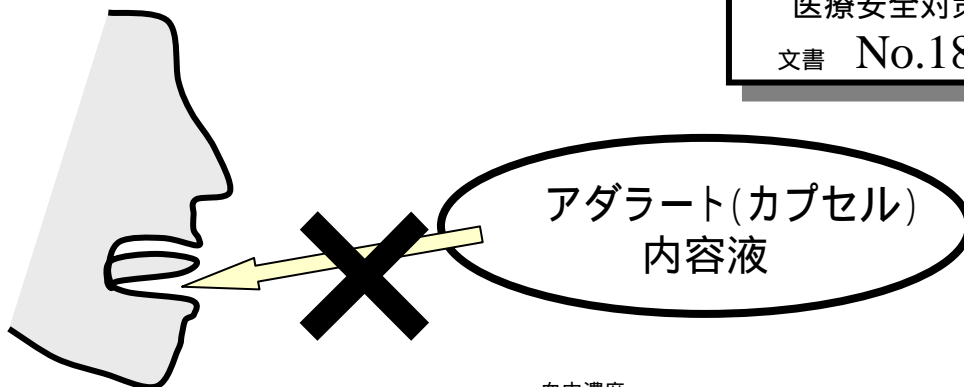
CRPSの病期分類

患側部の症状	期 急性期：0-3ヶ月	期 亜急性期：3-6ヶ月	期 慢性期
疼痛	激しい疼痛	根強く持続する疼痛	疼痛軽減（重症例は持続）
皮膚 皮下組織	発赤、熱感（または冷感）、浮腫、発汗過多	チアノーゼ、冷感、硬性浮腫、発汗過多で後に乾燥	蒼白、冷感、萎縮、乾燥
機能	関節運動制限	関節拘縮	手指使用不可
骨X線像	正常～斑点状脱灰	斑点状脱灰	びまん性骨萎縮
血流 Doppler	血流上昇、皮膚血管運動反応正常	血流低下、皮膚血管運動反応亢進	血流低下

2) アダラート(カプセル)の舌下投与は禁止

アダラート(カプセル)の舌下投与は禁止されています(H14.10月から用法削除)

医療安全対策
文書 No.188



アダラート(カプセル)の舌下投与により過度の血圧低下、反射性頻脈をきたす例があったため、アダラート(カプセル)の舌下投与は平成14年10月に禁止されました(添付文書で明記)。本薬剤はカプセルのまま内服投与してください。

